

昭和 47 年度
(1972)

積雪期知床半島縦走

昭和 47 (1972) 年 3 月 15 日～3 月 29 日

報告 No.2 の発刊にあたり、今や世界遺産となった知床半島に 34 年前に信州から胸躍らせて出かけていった 3 人の若者の想いを振り返ろうとしているが、とても無理で手元に残っているセピア色の行動記録を記した手帳と写真を基に簡単にまとめた。

「北の国へ出発つにあたって」(当時の計画書の巻頭言)

春はもう、そこまで来ています。やがて、菜の花が咲き穏やかな陽ざしが、我々を包もうとしています。なのに、我々 3 人は北の国へと旅立とうとしているのでしょうか。穂高という、すばらしい山が手近にありながら。

山岳部に入って以来、我々は常に未知への憧れというものを追い求めてきました。北アルプスにも、まだまだすばらしいものがあります。しかし、北の国への郷愁はもっと強い力で我々を引きつけました。知床の風雪の厳しさは、北アのそれにも匹敵するものようです。

今冬山に関して、部の内外で真剣に討議された遭対のことを忘れてはなりません。あの時、我々が話し合ったことを架空のもので終わらせないためにも安全登山に努めねばなりません。地図と若干の資料でしか、知らない知床で、それを実践することはかなりの困難が予想されます。我々の未熟な技術をフルに発揮して、未知なるものへ挑戦しよう。我々は知床を海外遠征への布石にしようなどとは、考えたくない。もっと、若者らしい、青くさいものと考えたい。未知なるものへの憧れと地の果てへの郷愁である。涙の出そうな甘酸っぱい感傷と若者の衝動である。

我々はアニマルではない。唯の弱い人間である。とにかく、まだ見ぬ地の果ての山々を楽しんで来よう。そして、再び、故郷の山へ戻って来るのだ。 CL 大安 徹雄

参加メンバー

大安徹雄(理3) 渡部光則(農2) 藤松太一(教2)

行動記録

3月11日～14日 松本→北海道へのアプローチ
松本 13:58 (アルプス6号) → 18:06 新宿-上野
19:00 (八甲田) → 3/12 6:15 青森
青森 7:35 → 11:25 函館 11:55 (宗谷) → 16:46 札幌

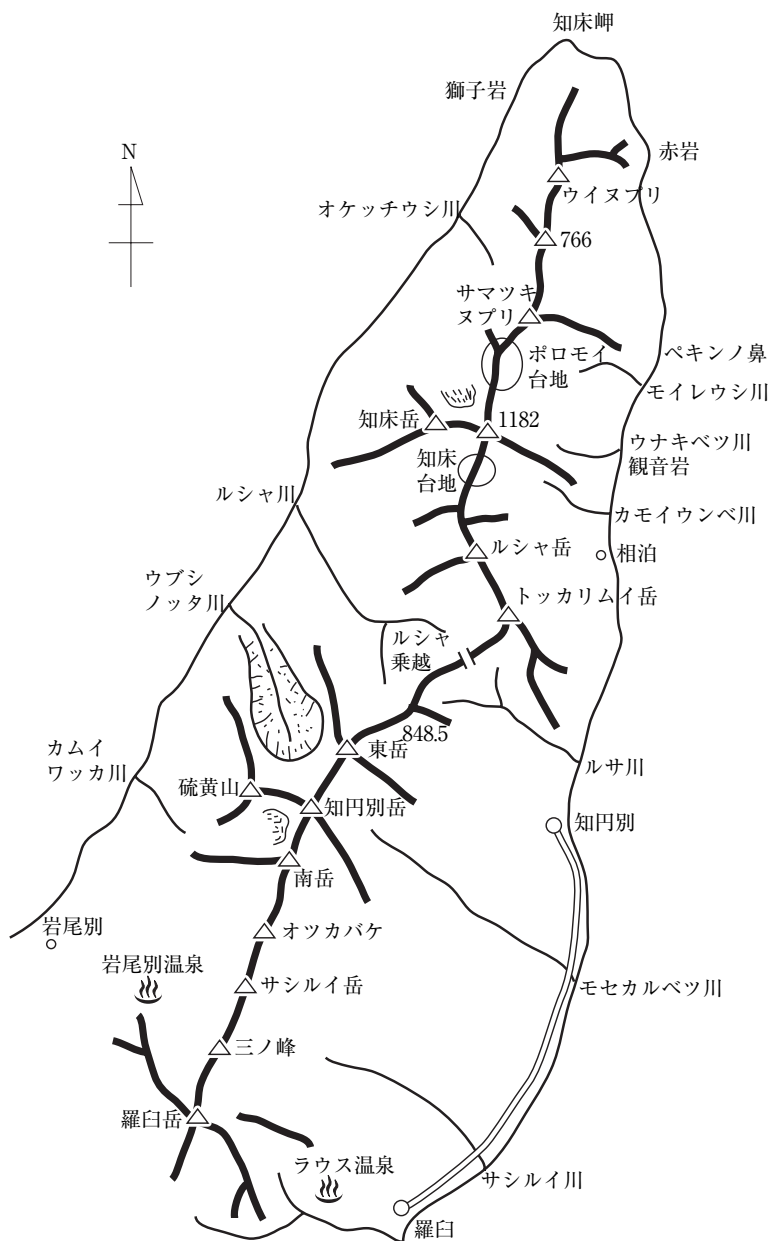
札幌で金野に北大等観光案内をしてもらい、英

気を養う。

エッセン等は一斗缶3缶に詰めて、鉄道チッキで事前に松本より、発送する。

札幌 3/13 13:10 (狩勝2号) → 19:35 釧路 3/14 6:32 → 7:43 標茶 7:53 → 9:34 根室標津 (バス) 羅臼

羅臼に着いたのは暗くなってからで、猛吹雪



知床半島概念図

だった。町はずれにテントを張る予定だったが、猛吹雪に完全に意気消沈（旅疲れ）し、民家（佐野一郎氏）の納屋（魚の加工場）に泊めてもらう。魚臭かったが、ありがたかった。

3月15日 雪 ルサ川ヘデポ

佐野氏宅 7:30 → 8:30 ルサ川河口 → 11:00 ルサ川二俣デポ地点 → 12:05 ルサ川河口 → 12:50 佐野氏宅 → 羅臼温泉 → TS

帰路のエッセン等をルサ川二俣付近にデポ。羅臼温泉で暫し、のんびり。

3月16日 晴 羅臼岳途中ヘデポ

TS 7:50 → 9:10 里見台上部、捨子松 → 10:00 第1岩壁 → 12:20 デポ地点 (800m) → 15:00 羅臼温泉 TS

羅臼岳 800m 地点にデポに行くが、留守中にツェルトの外にビニールをかけておいた2日分のエッセンをカラスに全部やられる。天気図用紙も持ち去られる。うかつだったと言うか……まさしく、「気まぐれカラスさん」であった。仕方なく、夕食は羅臼温泉で豪遊？

3月17日 曇り→晴→快晴

TS7:10→8:15 羅臼港と羅臼岳の見える台地→8:50 第1岩壁→9:50 スズラン峠→10:40 昨日のデポ地点→14:25 羅臼岳・三ノ峰間コル 雪洞(デポ回収、雪洞掘り)

やっと本格的に登山開始である。尾根に出る頃には天気も良くなり、幸先良いスタートとなった。昨日のデポを回収し、雪洞掘りに汗を流した。

3月18日 晴(風あり) 羅臼岳アタック

雪洞7:25→9:00 羅臼岳ピーク→9:40 雪洞→沈殿

羅臼岳アタック。ピークへの出口は岩と雪で少々しょっぱいが、天気が良くて360度の展望を欲しいままにできた。下りは適当にグリセード、尻セードで快調。晴天の沈殿で英気を養う。

3月19日 地吹雪 沈殿

昨日と打って変わって、猛吹雪。樺太の北、N55° E143°にある990mbの低気圧から生ずる前線の影響。沈殿であったが、30分毎に雪洞の入口確保のため雪かきを強いられる。昨日の沈殿が



●雪洞入口で左から渡部・藤松・大安

夢のよう。

3月20日 晴(風強し)→地吹雪 南岳(沈殿)
雪洞6:30→7:20 三ノ峰→8:20 サシルイ岳→9:10 オッカバケ岳→南岳→11:05 雪洞

南岳を越えたあたりより、ミルクガスとルシャモンが激しくなり、視界が全く利かなくなる。現在地不明のまま、雪洞を掘ってもぐり込む。ラジオによると、「日本海を980mbの低気圧が北上。15:00 現在、秋田沖にあり35km/hで東北東へ



●羅臼岳(1,660m)から硫黄岳と知円別岳の遠望

移動中。今夜半千島に抜ける模様」

夕方より、暖かくなり雪洞の天井、陥没の恐れあり。

3月21日 地吹雪 沈殿

ものすごいルシャモンとガスで視界ゼロ。現在地確認できぬまま沈殿。

縦穴を併設した雪洞なので、縦穴の上にかぶせたツェルトの隙間より雪が吹き込み居住性最悪。富士山での大量遭難をラジオで知る。

3月22日 晴（風強し） 東岳、デポ回収

雪洞 7:15 → 8:00 東岳 → 9:35 ルサ川左俣源頭
雪洞 12:15 → 3月15日のデポ地 → ルシャ乗越付近に再デポ → 16:45 雪洞

猛吹雪が去り、やっと晴れる。昨日までの沈殿場所は知円別岳を少し下った所と判明。東岳より、硫黄山アタックに向かったがガスと風強く30分で引き返す。

ルサ川の源頭に雪洞を掘った後、3月15日のデポを回収する。

3月23日 晴（風あり） 硫黄山アタック

雪洞 7:00 → 8:50 知円別岳直下 → 9:40 硫黄山
→ 10:50 知円別岳直下 → 12:05 雪洞

硫黄山アタック。中の廊下～前衛第1第2間～第3火口側よりピークに立つ。藤松が鼻血を出して、調子悪そう。天候下り坂。

3月24日 曇り（風強し） ルシャ岳

雪洞 7:30 → 10:15 ルシャ乗越手前ピーク（848m峰） → ルシャ川（オホーツク側）ヘトラバース → 11:30 ルシャ岳南西尾根稜線 → 13:45 ルシャ岳西面雪洞

カムチャッカの低気圧（986mb）の影響で、出発時はどんより曇り、風が強かったが、寒冷前線の通過に伴い、快晴となり風も弱まった。ルシャ岳ではオホーツクからの風が吹き荒れていた。

3月25日 快晴（微風） 知床台地～知床岳～ポロモイ台地

雪洞 6:30 → 7:20 二重山稜 → 10:50 知床台地南端 → 11:40 知床台地 11:55 → 12:15 知床岳 12:35 → 13:00 キスリング残置場所 → 14:00



●知円別岳から硫黄山を望む

ポロモイ台地→14:35 ポロモイ台地北端とサマツキヌプリ間のコルTS

久しぶりに快晴で穏やかな1日であった。サブザックで知床岳をアタック。天気良く、一気にポロモイ台地を抜ける。ルサ川二俣にデポしていたテントをサマツキヌプリ手前のコルに張る。

3月26日 快晴（微風時々強風） サマツキヌプリ～ウイヌプリ手前

TS7:35→7:50 サマツキヌプリ→10:35 ウイヌプリ手前 766m 峰東面雪洞

天気の良い日が続いて、気持ちよし。北国の春も近しいといった感じ。

サマツキヌプリではモイレウシ川への下降地点に赤旗を付けて、帰路に備えた。

早目に雪洞を掘って、濡れた物を干したり、日向ぼっこをしたりとのんびりする。

3月27日 快晴（無風） 知床岬アタック

雪洞6:30→9:15 海岸→10:20 知床岬 11:15→14:30 雪洞

いよいよ、待ちに待った今回の目的地 地の果て「知床岬」である。その日にふさわしく、朝から快晴無風である。海岸に降り立ち、雪混じりの原っぱを岬の先端目がけて3人は走った。感動の瞬間であった。森繁久弥の「知床旅情」の歌碑には興ざめしたが……。岬よりの帰路、弘前大の3人、北大ワンゲルの4人に出会う。当然、彼らはスキーであった。ちなみに我々はワカンとアイゼ

ン……。 (これに刺激されて、我々も翌春には黒部の源流をスキーで行くことになるのだが……)

3月28日 快晴（強風） モイレウシ川を下り化石浜

雪洞7:15→9:15 サマツキヌプリ→10:00 モイレウシ川上流→12:05 河口→15:45 化石浜 TS

長かった旅も終盤になり、帰路に着く。サマツキヌプリより、東へ出ている尾根を下降し、途中より、モイレウシ川へ降り河口へ出る。河口の景色は印象的で番屋が2軒、置き去られた漁船、海鳥、真っ青な海、真っ白い流水そして山肌……。なごりは尽きぬが、歩き始める。海岸線をそのままは行けず、急な斜面を2ピッチ高巻いて、化石浜へ降り立ち、テン張る。

3月29日 雪（風あり） 羅臼町へ

TS7:10→7:50 ウナキベツ川河口→8:15 観音岩→9:05 崩浜→10:20 カモイウンベ川河口→11:00 相泊→12:00 建根別（佐野氏宅）→14:00 羅臼町

最後の最後まで雪。観音岩はフィックスが雪で埋っていたため、20m アップザイレンで越える。相泊でやっと道路に出て、いつものことながら、トラックに便乗させてもらう。最初にお世話になった、佐野さん宅に寄り羅臼町へ戻った。3人の若者の北国への旅は終わった。



●渡部・大安・藤松 流水を背に



●渡部・大安・藤松 1972. 3. 27 知床岬

昭和47年度
(1972)

積雪期飯豊連峰縦走

昭和47(1972)年3月7日～3月19日

参加メンバー

CL 白井 武 SL 中田 茂
食料 棚橋秀顕
装備 服部幸雄
寺沢三男 (OB)

行動概略

3月7日 松本→長野→直江津→新潟→新津

14時30分発の急行赤倉に乗る。地図を誰も持っていない。新潟で買うことにするが、時間が遅くなり買えず、新潟駅も追い出されて、新津に戻る。24時位。

3月8日 新津→山都 - (バス) - 一の木 - 黒澤
出会い - (車) - 川入り部落 - 小沢小屋跡

新津を始発で出発して山都に行く。地図がないので白井が会津若松まで買いに行く。山都から一の木までバスで行く。途中歩いたり車に乗ったりして、川入りの部落に着く。川入りの部落は10軒ぐらいのところ、輪カンをつけて、1ピッチで小沢小屋跡。

夜、部落の人が来て、飯豊が初めての者には無理な計画だから止めるようにとの忠告をもらう。真夜中に寺沢さんが到着。

3月9日 TS - 地蔵山頂上 晴れ - 曇り - 雪

標高差800mの長坂尾根に取り付く。ラッセルは膝上までである。寺沢さんが喜んでラッセルしている。地蔵小屋、横峰小屋はどこに有るかわからない。14時20分頂上に着く。2時間30分掛けて雪洞を掘る。快適な一夜になる。

3月10日 TS - 三国小屋 (曇り) - 種蒔山頂上

(雪) - 切り合い小屋 (雪) - 飯豊本山最低コ
ル (雪) - 飯豊山直下ビパーク (雪) 18時30
分

ラッセルは重く湿った雪で膝ぐらいの連続。三国岳の手前剣ヶ岳のところがちょっとだけ岩稜になっていた。三国小屋は立派な小屋で、ココに泊まればよかった。本山の手前でアイゼンにはきかえて登るが、棚橋の調子が悪くなる。寺沢さん、服部が山頂の飯豊神社に先行し、白井、中田、棚橋が後から行くことにする。18時、飯豊神社から寺沢さん、服部が3人を迎えに降りて来るが、棚橋はまったく動けない。ココで雪洞を掘るため、白井、服部が神社にスコップを取りに行く。すでに暗くなっている。2名は神社の下りで方向を見失い、リングワンデリングになってしまう。2時間以上彷徨し、飯豊神社に戻る。白井は顔と手に凍傷。2名は神社にいた日大工学部の山岳部パーティーにお世話になる。棚橋が動けないため寺沢さん、中田で少し穴を掘り、ビパークする。

3月11日 雪 ビパーク地 - 神社

視界100m、雪で風強い。神社から迎えが来てビパークの3名はすぐに神社に到着。今日は神社泊まり。日大パーティーは大日岳に向かって出発。

3月12日 快晴 神社 - 飯豊本山 - 御西岳頂上

－大日岳－御西小屋に戻る

御西岳の上りはアイゼンが気持ちよく効き、快適な登り。快晴であり行く手の大日岳は真っ白な素晴らしい姿を見せている。御西岳に着くが小屋がない。雪の頂上しかない。1時間探し回り、小屋の屋根を探り当て、入り口を見つける。

その後サブザックで大日岳アタックに向かう。大日岳頂上は視界利かず残念。

3月13日 吹雪のため沈殿

3月14日 吹雪 御西小屋出発8時－視界10m
雪洞13時

吹雪であるが出發する。雪は軽いが膝の上までもぐるためなかなか進めない。視界も悪く、尾根も分からないため偵察を先行しながらの行動。雪庇を踏み外す危険も有り、ビバークすることにする。視界10mで小屋にも戻れない。天狗の庭手前。

3月15日 猛吹雪のため沈殿

雪洞の入り口埋まりラッセルを繰り返す。2mくらい入り口が埋まってしまう。

3月16日 ビバーク地快晴－烏帽子岳頂上－カイラギ小屋－北俣岳－標高900m付近ビバーク
快晴になり北俣岳を目指す。北俣岳頂上は素晴らしい眺望があった。朝日連峰、蔵王、魚沼三山、妙高が一望できる。

北俣岳の下りが思わぬ展開になった。ハイマツ帯の上に雪が載り、歩くと雪に隠れたハイ松の空洞の中に落ち込む下山となった。ハイマツの空洞に落ち込むと、這い上がるのに、もがき、苦しみ、時間ばかり過ぎていく。1時間で30m位しか進めない。

朝7時に出発して、夜10時行動を止めてビバークする。天気が良く風も無かったのが幸運であった。もし吹雪であったらと考えると、ゾッとする。

3月17日 ビバーク地－最低コル－烏井峰－飯豊川床－湯の平小屋

烏井峰からの湯の平小屋へのルートが岩壁にな

り支沢を降りる。飯豊川に下りたところで川の渡渉を繰り返す、小屋に到着。濡れたものを乾かすため炭をおこして暖を取る。

夜中に息苦しくなり、眼を醒ますと衣服が燃えたりして大騒ぎとなった。せっかく乾いたものがまた濡れてしまったりして、上手く行かないことが多すぎる。

3月18日 快晴 小屋－ビバーク地

今日は下山日と思い、出発は午後にする。飯豊川を下っていくと、大きなトロが出てくる。岩壁を高巻こうとザイルを出して登り始める。上から雪が崩れてきて臼井が巻き込まれそうになる。間一髪であった。これが、この後も大学を卒業するまで何度か臼井が本当に運を持って生まれてきたことを確認する初めになった。小さな雪崩が危険なため、谷沿いに行くことを断念する。尾根に取り付き、北俣川との二俣出合いまで下降する。二俣から再び川をジャブジャブと下る。ダムのようにみが出てきたところで右岸に上る。ダムが見えるところまで来たが、橋がなく、スノウブリッジを渡り返ししながら、夜の20時となりビバークする。ダムの明かりが悔しい。

3月19日 ビバーク地－かけとめ沢出合い－ダム－工事現場－東赤谷駅－新発田－式いつ－長野－松本

かけとめ沢にも橋がなく、フィックスして最後のへつりをして、ダムに到着する（午前9時）。14時工事現場に到着して、車に乗せてもらい、15時東赤谷駅着。工事現場に着いたときは、へとへとの状態。しかし、春は来ていた。アカタテハがひらひら舞っていた。ぬかるみに、道を歩くのがつらい。もう山には行かないと心に決めた。

追記 御子柴（寺沢）さんと、いま話すことが出来なくなったことが悔しい

